

2021年(令和3年)11月27日(土)

地域に伝わる偉人の劇を発表する鶴尾小3年の児童
—高松市松並町で



人権学習の成果 劇にまとめ披露

高松の小学校

高松市立鶴尾小学校
(同市松並町)で26日、
人権学習で学んだ成果

を児童が発表する「人権を考える会」があった。地域ゆかりの僧侶・観賢の功績を劇にしたり、障害者スポーツの意義をニュース番組風に仕立てたりして、学年ごとに披露した。同校近くで約1200年前に生まれた観賢は、空海に「弘法大師」の称号が贈られるよう醍醐天皇に尽力したことで知られ、2022年度から県内の小学生の道徳教材に採用される。3年生は授業で観賢ら地域の偉人について調べた成果を劇にまとめ、「調べているうちに鶴尾のまちがもっと好きになった」と発表した。

4年生は、車椅子バ

スケットボールやシッティングバレーなど、授業で体験した障害者スポーツについて発表した。発表を終えた杉本尚之さんは「相手の気持ちをしっかり考えて、楽しむスポーツだということを伝えたい」と話した。

【西本紗保美】